



会報 JAMT

JAPANESE ASSOCIATION OF MEDICAL TECHNOLOGISTS

発行所

一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会

発行責任者 横地常広

編集責任者 深澤恵治

〒143-0016 東京都大田区大森北4丁目10番7号

TEL (03) 3768-4722 FAX (03) 3768-6722

ホームページ <http://www.jamt.or.jp>

P1～P2 日臨技支部医学検査学会開催報告（3）【九州支部】

P2 令和6年度臨床検査技師のための臨床研究とCRCに関する研修 参加者募集中！

P3 全国「検査と健康展」in 岐阜（中央会場）

日臨技支部医学検査学会開催報告(3)

2024年度 九州支部医学検査学会

Take the next step ～ 未来へ踏み出す大きな一歩 ～

学会長 有村 義輝



11月9日～10日に鹿児島県担当で開催されました2024年度日臨技九州支部医学検査学会（第58回）について報告いたします。

学会当日、鹿児島の与論島には大雨特別警報が発表され、県は災害対策本部を設置されました。このような状況の中での本学会開催となりました。被害にあわれた与論島の皆様にお見舞い申し上げます。

開催にあたり多数のご来賓のご臨席を賜り、鹿児島県知事、鹿児島市医師会会長からご祝辞をいただき、心より厚く御礼申し上げます。また、日臨技会長並びに九州各県役員の方々と会員の皆様、賛助会員の皆様が多数ご参加くださいましたことに心から感謝申し上げます。

鹿臨技企画1「タスクシフト/シェアその他業務拡大関連について」は一步前進を感じさせられるシンポジウムだったとご意見をいただきました。また、鹿臨技企画2「臨床検査技師会としての養成学校との関わ

り方」については司会、演者、アンケート企画者3者による討論はとても面白く、今後のシンポジウムの形式はこのような行方が良いのではないかと皆様方のご意見でした。

文化講演として「鹿児島の食と心」～食から伝える思いや命～と題してNPO法人霧島食育研究会の理事長であられる千葉しのぶ先生からご講演をいただきました。「母ちゃんの声」として食卓で何を伝えるのか、伝えたいことは何なのかも今一度考える必要があるのではないか。自分が大切にされた思い出があると、子ども自身が「自分を大切にすること」ができるので、子どもと過ごす時間の中で食のあたたかな思い出を多く子どもの心の中に入れてほしいとのこと。講演後の質疑においては「なみだ～涙」越しの質疑応答で心が洗われる想いであり、多数の方々から「人情味のある素晴らしい講演でしたね」との感想をいただきました。

特別講演ではシスメックスからhinotoriTMの紹介を始め、手術支援ロボットの歴史、安全に使用するためのガイドライン、保険請求を実施する上で必要な施設基準、今後の取り組みとして、医療従事者の負担軽減を目指した遠隔医療について紹介をいただきました。教育講演では救急科医からみた検査値・パニック値、その中で「パニック値」の一覧について講演され、その運用については、医療安全対策の一環としてチームで一体となって確実に推進することを求める必要があると話されました。

基調講演では日臨技横地会長から政府が進める医療DXの未来について、臨床検査技師の根幹である品質保証された検査データの迅速報告体制を確保した上で、「臨床検査DX」をどう進めるかご講演をいただきました。

学生フォーラムでは学生に「将来こんな技師になりたい、臨床検査技師になってこのような仕事に携わってみたい」などの夢をスライド発表、若手技師から「病院で働く臨床検査技師から」と題して、自身が今後どのようなようになっていきたいかを考え、将来性や認定資格について発表をしていただきました。また、日臨技から今後の技師会の方向性への思いも語っていただき、参加者からも質疑を多数いただきました。学生フォーラムは本学会のとりよりのプログラムとしてその効果が十分あり多数参加していただきました。

情報交換会には多くの会員、賛助会員の皆様方に参加していただき大盛況でした。特に余興はベリーダンスの出演を依頼しました。全身を使う有酸素運動でリンパの流れがよくなり内臓の調子が整うと言われているダンスですが、参加された方々ほとんどお酒の流れが良くなり回っておられました（写真撮影禁止のため、写真がないのが残念です）。



情報交換会会場

本学会は悪天候にも関わらず、参加人数854人と多くの臨床検査技師会員皆様のご参加、またご協力いただきました賛助会員皆様に心より感謝申し上げます。大きな問題もなく、盛会裏に終了することができました。そして「九州はひとつ」を合言葉に鹿児島県の総力を結集して学会運営に取り組んだ鹿児島でのこの学会で、ご参集の皆様方が参加してよかったと、喜んでいただき、学会テーマの如く、未来に踏み出す一歩になれば幸いです。最後に次回第59回は長崎県担当でテーマ「開け未来への扉」～臨床検査の新たな価値を創造～です。多数の参加をよろしくお願いいたします。

令和6年度臨床検査技師のための臨床研究とCRCに関する研修 参加者募集中！

本研修は、臨床検査技師の職域拡大とチーム医療の推進を目指し、臨床研究・治験の倫理性、科学性、信頼性を確保するための知識の提供に加え、演習を設けることで最新の専門知識と技能を習得することを主な目的としています。被験者の安全性の確認、結果の評価のためには、臨床研究・治験における臨床検査の実施が必要です。本研修会は治験を実施している病院の臨床検査技師に必要な知識も盛り込みました。この機会に是非、参加をご検討ください。

**テマ： 臨床検査技師のための臨床研究・治験スキルアップ
～治験と臨床検査技師の役割～**

会期： 令和7年2月16日（日）9時30分～16時00分

会場： Web 開催（Zoomの利用）

募集人数： 60名

受講料： 日臨技会員3,000円 非会員6,000円（税込）

申込締切： 令和7年1月26日（日）

（定員になり次第、申し込みは締め切ります）

申込方法： 会員の方 会員専用ページからの事前申込をしてください

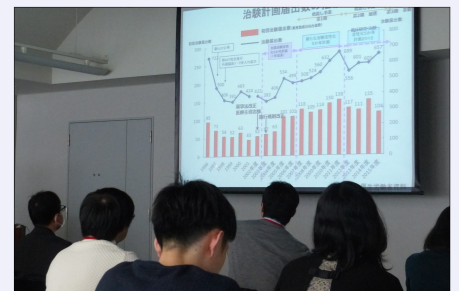
非会員の方 申込書をメールで送付してください

（メールアドレス：gyomuka@jamt.or.jp）

※申込書は当会HPの学会・研修会情報「日臨技主催研修会」からダウンロードできます。

後援： 日本臨床薬理学会

※日本臨床薬理学会認定CRC制度 認定単位5単位



平成31年度研修の様子
（本年度はWeb開催となります）

全国「検査と健康展」 in 岐阜（中央会場）

臨床検査のこと、それを担う私たち臨床検査技師のことを国民の皆様に広く知っていただくために、日本臨床衛生検査技師会は、毎年11月に全国「検査と健康展」を全国で開催しています。本年度も中央会場の岐阜県をはじめ、47都道府県すべてで実施することができました。中央会場を皮切りに、本号より各都道府県技師会からの報告と会場の様子を順次ご紹介していきます。

今年度、中央会場として11月10日(日)にイオンモール土岐にて岐阜県臨床検査技師会による全国「検査と健康展」を開催いたしました。「検査と健康展」の目的は、臨床検査に関する正しい知識の普及・啓発、国民の健康づくりや生活習慣病の早期発見への意識高揚を図ること、また臨床検査技師の未来に繋がる内容として行うもので、単なる健康チェックの場にならないことを意識しておこないました。

学術部門での企画では、エコー検査のトレーニング機器の体験や、生化学検査の化学発光の実験、人体模型パズルを使用して臓器の位置の確認、顕微鏡で細胞観察、尿定性検査や献血と輸血の説明を通して臨床検査に触れていただきました。その他に、手洗いチェック・物忘れチェック・簡易ヘモグロビン測定も行い来場者ご自身のチェックの場も設けました。実際に臨床検査に触れる来場者は初めての体験が多く、興味を持っていただいている姿が見られました。講演会では臨床検査専門医会のメ谷先生に、メタボリックシンドロームについて発生機序から予防方法、そのために臨床検査が重要であることを解りやすくお話いただきました。

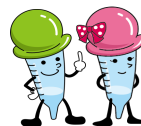
会場の様子



また、県内の技師養成学校である岐阜医療科学大学と東海学院大学の学生の方による学校で学ぶ臨床検査の説明もあり、会場の企画と関連付け臨床検査技師の仕事紹介ができました。しかし、健康チェックに偏らない「検査と健康展」の運営は集客力で難しい部分もあり、今後の開催場所や方法など課題も気付かされました。

関係された皆様のご協力のもと有意義な「検査と健康展」が行えたこと感謝申し上げます。

(岐阜県臨床検査技師会 澤野 晴夫)



次号からは各地方会場の様子を
紹介します。

「（編集後記）猛暑に耐え、秋の訪れを待ち、秋は？と瞬く間に冬、そして今年も残り僅かとなりました。日本の魅力は「四季を五感で感じる」のはずだったのですが。」

振り返ると様々な出来事が私達の生活や仕事に影響を与えた一年でした。新たな挑戦や変化に直面する中で、皆様のご尽力と支えにより、多くの成果を収めることができました。共に乗り越え、分かち合えたものも多くありました。我々の絆をさらに深めるものになったと感じております。それらを大切に！来年もよろしく願いいたします。

(根本)

(根本)